

小樽港を取り巻く情勢の今後の動向

小樽港を取り巻く外部環境の動向

【北海道の消費活動及び社会資本整備の動向】

- ・北海道内の総個人消費は、人口の減少や厳しい所得環境により、今後、大幅な増加は望めないと思われます。
- ・社会資本整備は、公共投資の減少もあり、今後、大幅な増加は望めないと思われます。

【北海道の産業の動向】

- ・食料基地としての北海道の役割はますます重要になるものと思われ、今後、農水産業や食料品製造業を中心とした製造業のほか、バイオ、IT関連産業、観光産業が発展していくものと思われます。

【北海道の物流環境の動向】

- ・北海道の道路整備は、今後も、広域幹線道路を中心に整備されていくものと思われます。
- ・北海道と本州の物流においては、今後とも船舶による輸送の重要性が高くなると考えられます。

【国際物流事情の動向】

- ・サハリンプロジェクト^{*}の進展などによる極東ロシア・サハリンの所得向上に伴い、今後、交流が盛んになると考えられます。
- ・近年の東アジア諸国の急速な経済成長に伴い、同地区を発着地とする海上コンテナ貨物取扱量が増大していくものと考えられます。

【港湾における景観形成に関する取組の動向】

- ・近年、景観形成に対する市民の関心が高まってきており、港湾においても、まちづくりと一体となった良好な景観の形成、保全への取組に対するニーズが高まっていくものと考えられます。

【港湾における環境保全に関する取組の動向】

- ・港湾では、水質改善、緑地や廃棄物受入施設の整備など、従前からさまざまな取組がなされてきましたが、近年、自然再生、環境教育、リサイクル、地球温暖化対策など、港湾に求められている環境保全に対するニーズは拡大してきており、今後もこれらのニーズは高まっていくものと考えられます。

小樽港の取扱貨物等の動向

- ・一般貨物については依然として厳しい環境が続いていくものと考えられますが、コンテナ貨物や完成自動車の取扱量、また、クルーズ客船の寄港数は増大していくものと考えられます。

小樽港におけるまちづくりとの連携の動向

- ・製造業、水産業、観光産業を始め、海洋に関する研究やバイオ、IT関連、リサイクル産業などさまざまな地域産業を支援する港湾空間として、利便性の向上に対するニーズが高まっていくものと考えられます。
- ・歴史、文化、水辺の景観を生かし、国際交流、市民交流、開放感やうらおいのある交流・生活空間形成に対するニーズが高まっていくものと考えられます。
- ・市民の安全・安心な暮らしを守る都市機能支援施設のニーズが高まっていくものと考えられます。

石狩湾新港と石狩湾新港地域の動向

- ・石狩湾新港は、小樽港と共に道央圏の物流拠点として、また、道央圏のエネルギー供給基地やリサイクル資源の集積拠点として発展していくものと考えられます。
- ・近年、石狩湾新港地域における企業立地件数が増加しており、今後も、札幌市に近接している地理的優位性を活かして立地が進んでいくものと考えられます。